

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390500064		
法人名	岩手環境保全株式会社		
事業所名	IK介護 グループホーム スマイル		
所在地	〒025-0314 岩手県花巻市二枚橋第5地割360番地の1 (電話) 0198-30-2626		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年4月10日

## 【情報提供票より】(平成21年1月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人、非常勤 3人、常勤換算	8.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造つくり	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	水道・光熱費、日用品等25,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.11 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合花巻病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは開設2年目であるが、併設するデイサービスとの連携を図りながら、最高齢96歳の利用者を中心に家庭的な雰囲気の中で利用者及び職員が支えあいながら、日々明るく過ごしている。このホームの特徴は、看護師の資格を有し、かつ経験年数を有する職員が多いため、利用者・家族は医療面での安心感を持っている。また、開設当初から「ここで看取することもできる」との選択肢を提示し、家族の信頼を得ていることは職員の自信にも繋がっており、そのため職員は、安心して提供できるよう勉強会を開いている。また、職員は三食共にしながら毎日を過ごし、日々冗談を言って笑わせ、愛嬌を振りまいたり、利用者一人ひとりの生き方から学ぶことが多く、90歳になっても母親として慕われ利用者や職員は常に寄り添いながら支えあう関係を築いている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価は開設したばかりの中で行われたが、話題となった運営推進会議の回数や内容については、2ヶ月に1回定期的に開催している。また、内容も活動報告のほか、委員から活発的な意見が出ており、それがホーム運営に反映され、地域との交流、連携にも繋がりが今後に期待がもたれる取り組みとなっている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが自己評価を行ったうえ、それをとりまとめ、再度、職員で話し合いを行った結果、地域とのかかわりが十分でないことに気づききっかけを得ている。今後の取り組みについて業務改善会議で話し合い、地域理解や交流について検討するほか、外部評価の結果についても、全職員で話し合い、課題改善に取り組むこととしている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、民生委員2名や地域包括センター、利用者・家族を委嘱し、開催回数は、平成20年9月から3ヶ月ごとから2ヶ月ごとの開催に改善したほか、会議内容も事業所の運営状況報告、方針説明のほか、委員からグループホームの地域理解を得るための方策の提案があるなど意見交換の場となっている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、要望等については、ケアプランの説明時や、面会時などを捉えて把握に努めている。更に家族の希望や意見、意向、ホームへの理解度などを把握するため、アンケート調査を実施しており、利用者の意向を反映できる有効な方法となっている。なお意見箱を設置し情報収集に努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 幼稚園や保育園との交流のほか、隣接のデイサービスで月1回の誕生会等を通して交流をしている。また、周辺民家は少ないが、ホームの理解や、地域との交流を深めるため、今後、毎月15日にお茶会開催を検討しているほか、ボランティアの登録などを地域に呼びかけている。

## 2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年4月10日

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当初の理念「みんなと共に、ほほえみを、ゆったり楽しく手をつないで、あなたを大切に」に、地域との関わりを明確にするため、新たに「広げよう地域との和」を加え、利用者が地域の中でその人らしい生活を支えていく取り組みを築く独自の理念をつくり挙げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は所内に提示するほか、ホーム便りにも掲載している。また、毎朝申し送りの際に唱和し確認し合っている。なお、日々の取り組みとして、「ほほえみ」をテーマに11月から、利用者の楽しそうな表情や、笑い声等を意識して記録し、業務改善会議で話し合うなど、理念の具体化に工夫をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園や保育園との交流のほか、隣接のデイサービスで月1回の誕生会等を通して交流している。また、ホームの理解や、地域との交流を深めるため、今後、毎月15日にお茶会開催を検討しているほか、ボランティアの登録などを地域に呼びかけている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行ったうえ、事務長がとりまとめ、再度、職員で話し合いを行った結果、地域とのかかわりが十分でないことに気づききっかけとなっている。今後の取り組みについて業務改善会議で話し合い、地域理解や交流について検討するほか、外部評価の結果についても、全職員で話し合い、課題改善に取り組むこととしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、民生委員2名や地域包括センター、利用者・家族を委嘱し、開催回数は、平成20年9月から3ヶ月ごとから2ヶ月ごとに頻度を増やしたほか、会議内容も事業所の運営状況報告、方針説明のほか、委員からグループホームの地域理解を得るための方策の提案があるなど意見交換の場となっている。	○	運営推進会議の活用は、地域との繋がりや支援などの面から今後ますます重要な位置づけとなると考えられる。特に、地域理解や地域の支援、交流を図るひとつの方法として、安全、安心、支援協力をテーマにして地区代表者、消防、交番等の関係者をお招きし意見交換をすることもホームにとって時宜と考えるので検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラーの設置相談など、市との行き来する機会が、少しずつであるが増えてきているとしている。地域密着型サービスという視点から市との連携は大切と考えており、今後、情報交換や交流を図っていくこととしている。	○	地域密着型サービスは、市町村と連携を図り、双方の情報交換を図りながらそれぞれの意向を反映することが非常に大切と考える。市内の同業者同士が集まり、そこに行政も参加し情報交換する機会の設置など貴ホームから市へ提案することも一考である。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態等については、ケアプラン作成時を利用し報告しているほか、面会時や電話、手紙でお知らせしている。金銭管理は利用者ごとに収支状況を記帳し、来訪時に説明しサインをいただいている。また、職員の異動は、スマイル便りにてお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等の場を通じて、意見、要望などを聞くよう心がけている。更に家族の希望や意見、意向、ホームへの理解度などを把握するため、アンケート調査を実施しており、利用者の意向を反映できる有効な方法となっている。なお意見箱を設置し情報収集に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで一度職員の異動があったが、認知症ケアの経験豊富な職員が多いため、大きな影響はなく自然な形で利用者との馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	方針として「自分や家族を安心して任せることが出来、思わず笑顔があふれ出すサービスを提供する」を掲げ、それを達成するため、教育システムの構築と情報の共有化の2つの柱のもとに、月に2回の内部研修を開催するほか、職員のスキルアップに助成し応援するなど、サービスの質の向上を図るための支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内及び県南のグループホームとの交換研修を実施して、情報交流や同業者との意見交換を行い、サービスの見直し改善に繋げるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅を訪問(施設長、ケアマネ等)し、本人・家族から要望などを聞くほか、ホームの施設見学や、併設するデイサービスを利用しながら場の雰囲気や職員と馴染めるよう工夫して安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は三食共にしながら毎日を過ごし、その中で日々の話題を語りや冗談を言って笑わせ、愛嬌を振りまいたり、料理の味付けの上手な人など、利用者一人ひとりの生き方から、学ぶことが多く、90歳になっても母親として慕われ利用者と職員は常に寄り添いながら支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し利用者の思いや意向の把握に努め情報を共有している。また、平成20年12月から包括的自立支援プログラムを活用しケアチェック表でチェックするほか、家族から聞いたことや気づいたことをこまめに日誌に記入し、随時ミーティングで情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時のアセスメントや本人・家族からの意見等を踏まえケアマネージャー等全職員で話し合い(朝夕のミーティング)ながら計画を作成し、サービスが実施されているかどうか、職員に回覧し朱書きの書き込みをするなどのモニタリングをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行っているほか、利用者の状況変化に応じて見直しは随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急の医療受診のときに付き添い支援をしたり、美容や買い物など利用者の要望に柔軟に対応しており、今後もしもできる範囲内で対応していきたいとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医をかかりつけ医としている。通院は家族同行を原則としながらも、緊急時必要な場合は、職員が通院支援にあたるなど柔軟な対応に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を示し、看取り看護まで行う旨を説明している。職員は日ごろから家族やかかりつけ医とコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていくこととし、そのための勉強会を職員全員で継続し、ホームとして最大限の対応に努めていきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	看護実習生を受け入れていることを踏まえて、利用者のプライバシーの保護と個人情報記録の扱いには注意しているとしている。また、利用者の自尊心を損ねる恐れのある言葉遣いや、入浴やトイレの利用時における羞恥心対応について職員間で話し合いを行い確認合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人ひとりの思いや希望に耳を傾け、利用者のペースに沿ったケアに努めているとしている。今後も更に利用者の思いを傾聴して支援を行いたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの特色は利用者及び職員が3食一緒に食事し、家族的雰囲気の中で食事している。最高齢の方も同じメニューで最後まで食べられることが励みになっている。調理や、配膳、後片付けも利用者と職員と一緒にしている。たまには外食するなど変化を持たせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきの入浴で、利用者の体調に合わせて、一人ひとり介助や見守りをしながら入浴支援をしている。特浴利用の方には、隣接のデイサービスを利用している。また土日は入浴がないため足浴を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は日常生活の中での自分の役割として調理、配膳、後片付け、掃除、洗濯もの干し・たたみなどを行うほか、趣味を活かした習字、編み物、裁縫等をしたり、花見、カラオケ、ドライブなど気晴らしとして楽しむなど、場面づくりとその支援をしている。常に「貴方のお陰だね」と感謝の声かけをすることで喜びや張り合いになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調、希望、天候を考慮しながら、買い物、散歩など外出支援を行っている。今後は一人ひとりの希望にできるだけ添えるよう、馴染みの場所など気軽な外出支援に努めていきたいとしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には、鍵はかけないことを原則・基本としている。利用者の安全に配慮しつつ、やさしく見守りにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月「9のつく日」に避難訓練をしている。夜間火災対策マニュアルができており、今後は、夜間想定訓練を実施したいとしている。消防や警備保障会社の協力もあって見回りがなされる。なお、スプリンクラー設置を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や便秘にも配慮されたメニューで、主食は150gとしており一人ひとりに合った量となっている。食事や水分摂取状況を毎日チェックし、定期的に体重測定もしている。毎食前に口腔体操も楽しく行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると太い柱や梁に圧巻されるが、木の香りと高い天窓からの光に落ち着いた雰囲気を感じる。広い共用空間には小上がりの畳敷きの間があり、横になって休むこともできる。また丸いテーブルや丸くカーブした窓、季節の花、「春」と書いた習字などが飾られ、春を待つ工夫などもされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室ベッドのほかに、テレビと小さな丸テーブルと椅子がセットされている。利用者は、思い思いに過ごせるよう、写真や好みの置物などで飾り穏やかに過ごせる居室の環境となっている。冷蔵庫やこたつを置いている利用者もおり、まさに自分の部屋である。		